

洋菓子「アンリ」の会社にスケート選手が？

地元リンクの縁 世界目指す2人所属

「アンリ・シャルパンティエ」といえば、フィナンシェやケーキで有名な洋菓子ブランドだ。そのブランドを運営するシュゼットHD（本社・兵庫県西宮市）に氷上競技部があり、世界をめざすショートトラック・スピードスケートの選手が所属しているという。なぜ、お菓子の会社にスケート選手が――。

2022年の年末、丸善インテック大阪プール（大阪市港区）のリンクで、激しい氷上練習が続いていた。ケーキなどでおなじみ、アンリ・シャルパンティエの「キャンドルマーク」が胸や袖に描かれていた。

シュゼットの氷上競技部には入社2年目、女子社員の島根くるみ（24）、男子でアルバイトの松林佑倭（20）の2選手と、昨季限りで第一線を退いた小山陸コーチ（27）がいる。

島根は埼玉・浦和学院高からショートトラックの強豪・阪南大に進んだ。競技は大学までのつもりだったが、少しずつ成績が伸びていた。

「まだスケートを続けたいけど、就職先がない」と悩んでいたところ、同社の

「まだスケートを続けたいけど、就職先がない」と悩んでいたところ、同社の

「まだスケートを続けたいけど、就職先がない」と悩んでいたところ、同社の



練習で先頭を滑るシュゼットの島根くるみ＝大阪市港区の丸善インテック大阪プール



島根はスケートを続けながら、将来はパティシエになりたいという夢も持つ

シュゼットの松林佑倭。地元兵庫出身で、将来が期待される20歳だ



「地元の若者を応援し、地域スポーツを後押ししたい」と話すシュゼットHDの蟻田剛毅社長＝兵庫県西宮市

りたかったのだという。

「製菓の専門学校に行こうか迷ったぐらい。今はスケートをやって給料をもらって、お菓子もつくれている。結果的に夢が両方かなってしまった感じですね。ふふふ」

シュゼットは兵庫県芦屋市で1969年、喫茶店として創業した。2013年、西宮市に通年リンクの「ひょうご西宮アイスアリーナ」がオープンした際、地元本社がある縁で、スケート教室を協賛することになった。

そこで始まったのが「アンリ・シャルパンティエスケート教室」だ。シュゼットHDの蟻田剛毅社長（48）は「うちの本社や工場が西宮にあることは意外と知られていなかった。教室のおかげで、工場にアルバイトを集めるのにも役立った」と明かす。

また、教室を通じて、有望な選手が競技をあきらめ、兵庫県から流出している現状を知った。会社として、地元の若者を応援し、地域スポーツを後押ししたいと考えた。

この教室に関西学院大スケート部員だった小山が参加した縁もあり、初のアスリート社員として入社した。

シュゼットのCSR（企業の社会的責任）の基準は三つ。①阪神間を盛り上げる②世界をめざす夢を持つ③食に関係する――。選手は①と②に合致する。蟻田社長は「僕らもお菓子で世界大会があり、シンガポールにも出店している。世界をめざす若い人は魅力です。五輪をめざした島根が将来、パティシエの世界大会に出る可能性もありますよね」。

1月21、22日、長野で行われた全日本選手権。島根は女子5000円で8位、松林は男子1500円で4位に入ったが、世界への切符は取れなかった（松林はW杯後半戦の補欠に選出）。島根は「トップとの実力差を改めて感じた。レベルアップして必ずリベンジします」と誓った。